

ゴールネットが揺れるたびに 上がる歓声

2月23日・24日、総合公園自由広場および第2自由広場で第29回行田市スポーツ少年団本部長杯争奪サッカー大会が行われ、県外を含む36の小学生チームが熱戦を繰り広げました。

試合が始まると選手らは、勝利を目指し必死にボールを追いかけ、ゴールめがけて勢いよくシュート。ゴールネットが揺れるとベンチや観客から大きな歓声が上がっていました。



論語や漢詩を一言一句 しっかりと読み上げる

2月23日、「みらい」文化ホールで公益財団法人 忍郷友会による「第3回朗唱まつり」が開催されました。

論語や漢詩を通して江戸時代の藩校教育を現代に生かすことを目的に開かれたこの催しに、忍藩子ども塾生・卒業生の他、市内の園児、小・中学生も参加。日ごろの成果を、声高らかに発表しました。会場を訪れた人たちは、一言一句しっかりと読み上げる子供たちの姿に感心した様子でした。



大好きなお菓子がずらり

2月24日、商工センターで「まちの賑わい“感謝祭”音楽と菓子の祭典2019」が開催されました。

行田市菓子商工業組合に加盟している店舗が集まり、洋菓子・和菓子の販売が行われる中、音楽コンサートやキッズダンスも披露され、会場を盛り上げました。せんべいやまんじゅう、手作りクッキーなどがずらりと並んでよりどりみどり。来場者は何を買おうかと迷いながらも、その時間を楽しんでいました。



春の花で「地産地消」

3月1日、行田市花き園芸組合長の島澤万蔵さん、役員の高橋晴義さん、山本有太可さんが市役所を訪れ、サイネリアの鉢植えを寄贈しました。

この事業は、市内で栽培された花をたくさんの人に楽しんでもらおうと古代蓮の里の花壇への花の植え込み作業と同様に同組合が長年行っているもの。この日は市役所の他、きつぷらザあおいなど市内8カ所の公共施設にも色鮮やかなサイネリアが届けられました。行田で育った花々を市内で飾ることは「地産地消」にもつながっていきます。



今後に大きな期待 行田みらい塾の成果発表会

3月10日、商工センターホールで行田市日本遺産推進協議会による「行田みらいフォーラム2019」が開催されました。

これは日本遺産を活用した観光振興や地域ビジネス創出、それらを担う人材育成を目的に昨年7月にスタートした「行田みらい塾」の成果発表会で、第1期生が3グループに分かれ事業計画を発表。すぐにでも実現可能な提案も多く、参加者からは興味深く聞き入り、塾生らの今後の活躍に期待を寄せていました。



水辺空間を整備し まちのにぎわいを創出

3月16日、城西地内に新たに整備された忍川親水広場(皿尾橋下流右岸)で、「忍川 川の国埼玉はつらつプロジェクト竣功式典」が行われました。

平成29年度から県、市、自治会・地域団体の3者で取り組んでいるこのプロジェクトにより、忍川の吹上橋から杣殿堰までの約2.4キロメートルの区間で遊歩道や親水広場などが整備されました。整備の完了を受けて開催されたこの日の式典では、コヒガンザクラの植樹が行われた後、同プロジェクトを紹介する案内板の除幕式が行われると、参加者からは盛大な拍手が沸き起こりました。このたびのプロジェクトで水辺空間の整備・拡充が図られたことにより、まちのにぎわいの創出につながることを期待されます。



かわいい人形たちの ストーリーに大喜び

3月9日、児童センター遊戯室でふれあい人形劇が行われました。

この日は、設立100周年を超える伝統ある立正大学児童文化研究部の学生16人が、パネルシアター、紙芝居、手人形劇の3つの劇を披露。テンポ良く繰り広げられる物語のかわいらしい人形たちに、未就学児から小学生まで37人の子供たちは、目を輝かせながら見入っていました。



ドッチビーで心地良い汗を流す

2月23日、行田グリーンアリーナで行田市スポーツ推進委員協議会による第5回行田ふれあいドッチビー大会が開催されました。

「ドッチビー」はドッチボールに似た競技で、ボールの代わりにウレタンとナイロンでできたディスクを使用します。当たっても痛くないことから年齢を問わず楽しむことができるため、今大会には幼児から高齢者まで市内外から7チーム合計110人が参加。終始、笑顔でプレーした選手らは、心地良い汗を流していました。

